



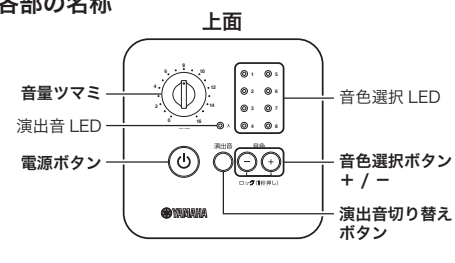
ヤマハ スピーチ プライバシー システム
フロアタイプ

VSP-1

クイックスタートマニュアル

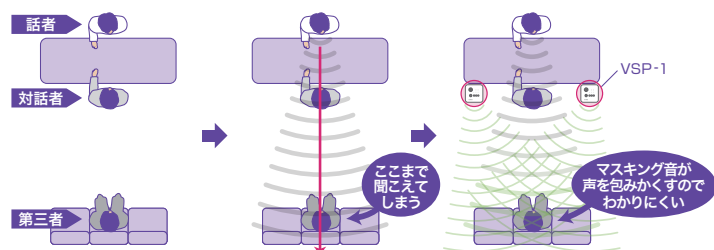
オフィス編

●各部の名称



●VSP-1の機能

VSP-1 はヤマハ独自の情報マスキング技術により、話者と対話者の会話を、第三者に聞き取りにくくします。人の声や自然の音などから合成されたヤマハマスキング音で会話の内容を包みかくし、安心して心地よい音空間を提供します。

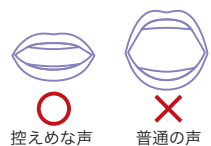


知っておいていただきたいこと

重要 VSP-1は話者に控えめな声でお話いただくなど、使用者のご理解・ご協力を得て効果を発揮するシステムです。

VSP-1は話者がプライバシーに配慮した「控えめな声」で話す時に効果を発揮します。

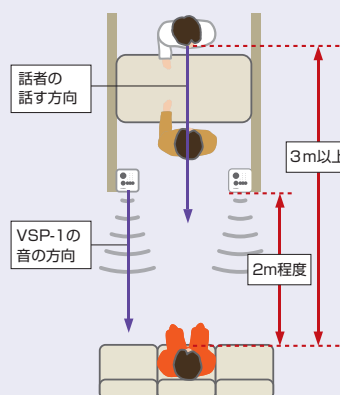
普通の声量・話し声では、会話の内容が聞きとれる場合があります。



正しく効果を得るために

- ◎ VSP-1は床面に設置してください。
- ◎ 話者と第三者の距離は、3m以上離してください。VSP-1と第三者の距離は、2m程度離すことをお勧めします。
- ◎ VSP-1 の向き（音の出る方向）は、話者の話す方向と、平行になるように設置してください。

※ 右図は設置の一例です。

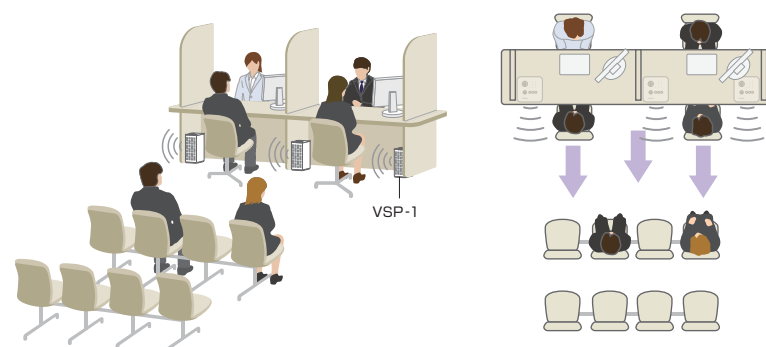


ステップ

1 活用シーン別 設置のポイント

カウンターから待合席

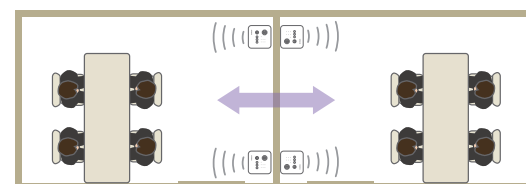
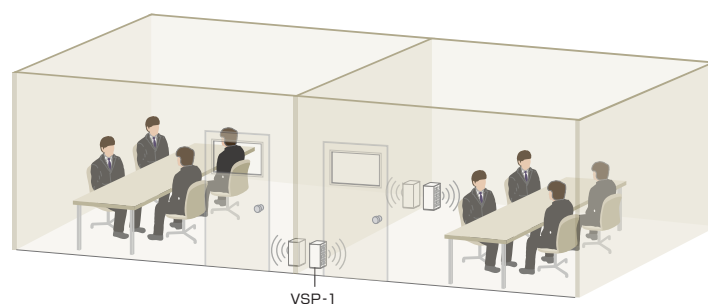
カウンターの会話が、待合席の方には聞き取りにくくなります。



設置台数の目安は、カウンターの数に1を加えた台数で
上図は、2つのカウンターに、計3台設置しています。
VSP-1 同士の間隔が2m以内になるように設置してください。

会議室間 相互

隣り合った会議室で、互いの会議内容が漏れるのを防ぎます。

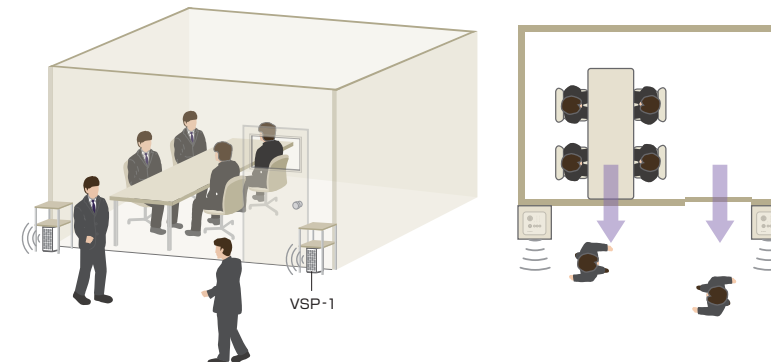


間仕切り壁を挟む形で、背中合わせに設置します。
壁の遮音性能や部屋の大きさ等で、設置台数は異なります。

→ 会話が漏れる方向))) マスキング音を流す方向

会議室から通路／事務室

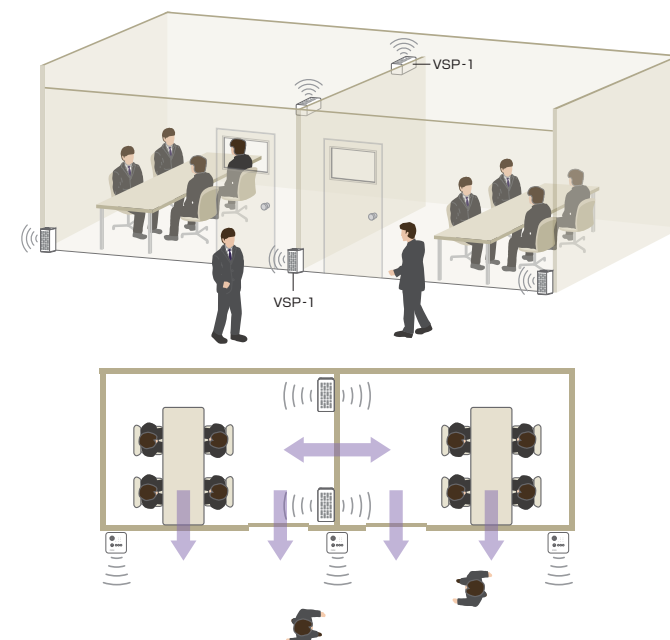
会議の内容が、外に漏れ聞こえるのを防ぎます。



設置台数の目安は、会議室の数に1を加えた台数で
上図は、1室に対し、計2台を設置しています。
VSP-1 同士の間隔が4m以内になるように設置してください。

ハイパーパーティションの相談室

壁が天井まで達していない会話が聞こえ易い空間で、
部屋間 相互と外への対策を施した活用例です。

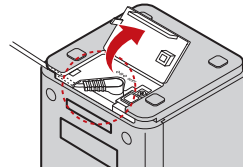


ハイパーパーティション上に取付金具を用いて設置、マスキング音を天井に向けて流し、音を反射させて両方の部屋で効果が得られるようにします。併せて通路にも設置して、外の方へも会話を聞き取りにくくしています。
※取付金具は別売、設置には別途 設置費が掛かります。

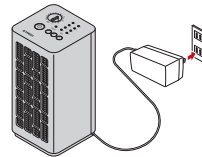
2 電源を入れる

- 1 底面カバーを開け、付属の AC アダプターを電源コネクタに接続します。

AC アダプターのケーブルは、左右どちらかの溝にはめ込んでください。



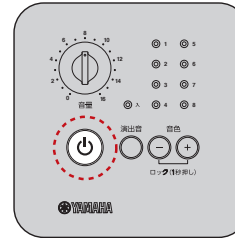
- 2 AC アダプターをコンセントに接続します。



- 3 電源ボタンを押します。

マスキング音の再生が開始されます。

電源を切るには、電源ボタンを長押しします。

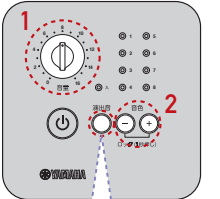


3 音量・音色を設定する

- 1 音量ツマミで音量を設定します。

音量の目安

カウンターから待合席：8～10
会議室から通路／事務室：6～8
会議室間 相互：2～4
ハイパーティションの相談室：8～10



- 2 音色を選択します。

音色選択ボタン+または-を押して8種類から設置環境やお好みに合わせて音色を選択します。

演出音が気になるときは「演出音切り替えボタン」でオフにします。

4 効果を確認し、その場所に最適な設定を行う

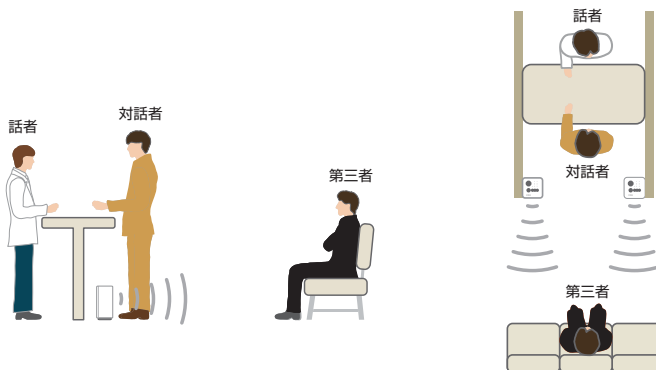
<カウンターから待合席の場合>

- 1 効果の確認は3人で行います。

- 2 VSP-1の電源を入れ音量・音色を設定します。設定の目安はステップ3を参照してください。

- 3 エアコンやBGMなど、業務時間に作動させている機器の電源を入れ、普段通りの音が出ている状態にしてください。

- 4 下図のように3人が話者・対話者・第三者役となり、話者・対話者は業務を想定した会話を行ってください。この時話者は、業務に支障のない範囲の控えめな声で話してください。



- 5 第三者役の方は、カウンターの会話内容が聞き取りにくい場合確認してください。

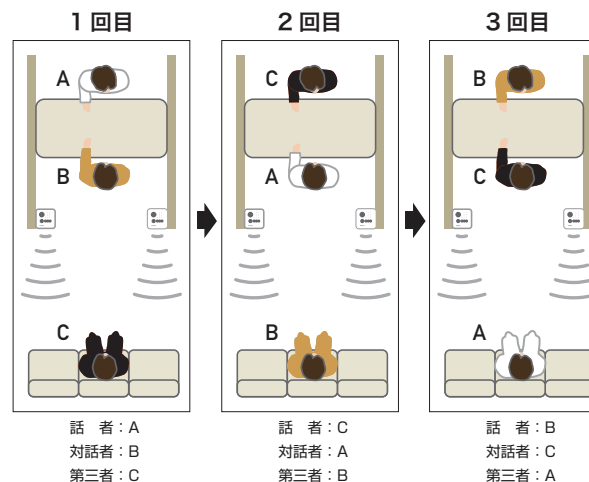
聞き取りにくい場合

良好です。
次へ進んでください。

聞き取れる場合

話者は声量を下げてください。
ただし声量不足で業務に支障がでる場合はVSP-1の音量を上げてください。

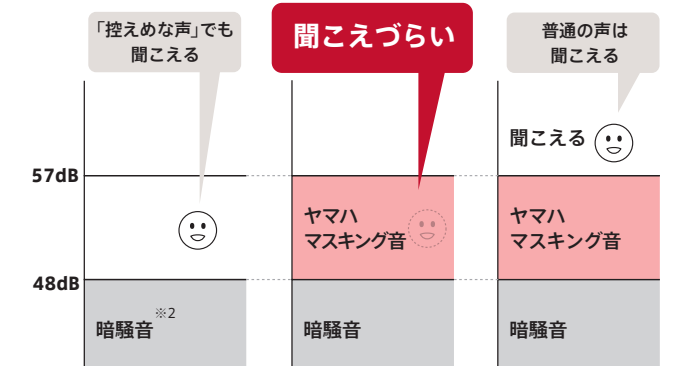
- 6 話者、対話者、第三者の役割を交代しながら4→5を行い、全員が控えめな声の程度を確認します。



※交代で話者役を勤め、全員が第三者に聞き取りにくい声の大きさを把握できたら完了です。

会話の内容が聞き取れる場合

ステップ4の確認で第三者が会話内容を聞きとれる場合、話者はより控えめな声量でお話してください。VSP-1は 57dB 以下の「控えめな声」で話す時に効果を発揮します。



※1 カウンターで使用する場合の目安です。

※2 暗騒音：その場所にもともと存在している音。

※上記の数値は、おおよその目安です。

(設定環境・設置条件により暗騒音、聞こえづらい範囲は変動します。)

話者が声量を控えめにすると業務に差し障りがある場合は、VSP-1の音量を上げてください。音量を上げるとマスキング効果は上がりますが、周囲の「うるささ」も増します。

話者の声の大きさとVSP-1の音量の兼ね合いで、マスキング効果と周囲の音環境は変化します。

二つの音量のバランスを調整して、ご使用場所にとって最適な設定を行ってください。

VSP-1の音量を変更したり、話者が代わるなど声量に変化した場合は、ステップ4を再度行ってマスキング効果を確認してください。